

指導例

絵本を楽しむ

対象年齢:5歳児

ねらい:つながる力・豊かな心・学ぶ力

- ☆自分の気持ちを言葉で表す子ども
- ☆いろいろなことに感動する子ども
- ☆自分からあいさつする子ども
- ☆経験したことや考えたことを友達と伝え合う子ども
- ☆相手を思いやり、感謝の気持ちを持つ子ども

- ・ 親しい人と絵本を一緒に読むことで、絵本を好きになる。
- ・ 身近な人と親しみ、愛情や信頼感を持つ。

おすすめ
絵本「おおきくなるっていうことは」
中川ひろたか 村上康成 童心社

経験する内容

- ・ 子ども2名ずつが、園長と一緒に自分で選んだ絵本を読む。
- ・ 絵本の内容について思ったことを話す。
- ・ 経験したことや感じたことを話す。
- ・ 相手に伝える楽しさや、聞いてもらった満足感を味わう。



子どもの姿

- ・ 「次はどの絵本を読もうかな？」と絵本を読むことに積極的で、絵本読みを聞いてもらえることを楽しみにしている。
- ・ 「上手に読めるね」「字をよく覚えているね」とほめてもらえることで読むことへの自信につながり、次回の絵本読みの時までに進んで読む姿が見られる。

環境・援助で気をつけること

- ・ 家庭にいるような落ち着いた雰囲気の中で、園長と一緒に絵本を読んだり会話をしたりして、ゆっくり穏やかなひと時を過ごす。
- ・ 園長がおばあちゃんの役割をすることで、身近な人と信頼関係を築きながら、人と関わる力を育てていく。
- ・ 「おじゃまします。」「ありがとうございました」等、生活に必要なあいさつや会話をしたり、靴を揃えて家に上がる等、生活のマナーも自然に覚えるようにしていく。

指導例

『また、みんなでやりたいな！』 ～創作劇遊びを通して～

対象年齢:5歳児

ねらい:つながる力・豊かな心・学ぶ力

- ☆経験したことや考えたことを友達と伝え合う子ども
- ☆友達の気持ちに気付き、共感する子ども
- ☆人の話をきく子ども
- ☆我慢したり、譲ったり、自分の気持ちに折り合いをつける子ども
- ☆自分が好きと感じ、自分に自信を持つ子ども
- ☆いろいろなことに感動する子ども
- ☆できた喜びを感じる子ども
- ☆なぜかな?どうしてかな?と考え、工夫してやってみる子ども

- ・自分なりの力を発揮して、意欲的・主体的に表現活動に取り組む。
- ・保育者や友達と一緒に、共通の目的に向かって、工夫したり考えを出し合ったりして、充実感や達成感を味わう。



経験する内容

◎生活発表会に向けて、 クラスで取り組む創作劇作り

- ・自分たちのオリジナルのあらすじを考える。どこで?誰が出てくる?どんなことが起こる?と考え、自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりしながらアイデアを出し合う。
- ・セリフや効果音、替え歌を自分たちで考える、など演出について話し合いをする。
- ・道具類や衣装、背景・スライド作りなど、劇遊びに必要なものを工夫して作る。
- ・自分の役を考えてイメージをふくらませる。
- ・出番以外の時の裏方の係など、話し合って決める。
- ・自分達で発表会という共通の目的に向かって創りあげていく楽しさを実感し、「みんなでやり遂げた!楽しかった!」という達成感や充実感を味わう。



子どもの姿

◎劇の設定のアイデアを出し合う。

- ・いろいろな生き物が通う「いろいろ幼稚園」を舞台にする。
- ・「地球温暖化やで!」「あんな、空気が熱くなりすぎることやで」の一言から「空気が熱くなりすぎて地球にひびが入ってしまった」という設定になる。
「ひびを治すのは何をつかおうか」との保育者の問いに「きらきらセロテープ」「めっちゃよボンド」など意見がたくさん出て、「スペシャルテープ」となる。
- ・いろいろ幼稚園で得意なことをして遊んでいる、妖怪人間がでてきて庭のひびを見つける、テレビからイスカンダル星のスターシアが飛び出してくる、ヤマトに乗ってイスカンダルへ行く、途中で宇宙戦艦ヤマトのデスラー大佐が出てきて邪魔をするなど、話し合って少しずつあらすじができていく。
- ・「つのが作りたい」「漫才やりたいわ」「お手玉の高速する!」「一人でマイクで歌いたい」「めっちゃ高い竹馬のりしたい」「スペシャルテープはレインボー色にしたい」など、どんどん意見が出る。

◎友達の意見を聞いたり、自分の意見を言ったりしながら、アイデアを出し合ってクラス全員で協力して劇を創りあげていこうとする姿が見られる。

◎自分の出番の時だけでなく、劇がスムーズに進行できるように友達の出番の時も気を配る姿が見られる。

◎一人一人、目標に向かって挑戦する内容を設定したことで、練習時間以外にも何度も挑戦する姿が見られる。

『また、みんなでやりたいな！』 ～創作劇遊びを通して～

環境・援助で気をつけること

- ・話し合いの場と時間は十分に確保するようにし、一人一人の意見を活かしながら、友達の意見にも耳を傾け、子どもなりに折り合いをつけることで、より良いものになることを実感できるように進める。
- ・ストーリーをまとめるにあたり、子どもの意見を具体的に整理して言葉にしたり、保育者の思いや案を投げかけたりして、話し合いを深める。
- ・仮決定の脚本を素話風にして聞かせたり、劇の場面を想像して文章と絵を考える「劇かるた」を制作したりしながら、劇をつくっていくことに期待が持てるよう工夫する。



劇遊び

- ・劇がまとまり完成に近付いてくると、形になっていく喜びが目で見えて実感できるよう、役の場面ごとに見せ合う場を設ける。
- ・発表の時間をあらかじめ設定し、子どもと相談しながらいろいろな場面を修正したり、話し合って削除したりして、覚えることを詰め込んだり内容を増やしすぎたりしないように留意する。
- ・セリフや演出・歌やダンスなど、初めに決めたものにとらわれず、子どもの興味の移り変わりに応じて、一緒に考え、相談したりしながら、子ども主体のより良いものに変更していくよう余裕をもって練習を進めていく。
- ・子どもが意欲を持って楽しんで練習できるよう、保育者も活動に主体的に参加し、子どもの頑張ろうとする気持ちに寄り添いながら側面から援助していくよう心がける。

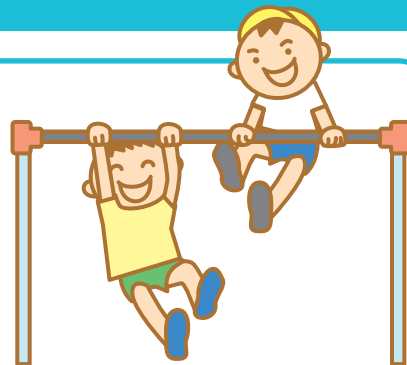
テレビ作り



指導例

サーキット遊び

対象年齢:5歳児



ねらい:健やかな体・つながる力・学ぶ力

☆体を使って思い切り遊ぶ

☆場面に応じて柔軟に体を動かす子ども

☆決められたルールを守り、自分達のルールをつくって遊ぶ子ども

☆できた喜びを感じる子ども

- ・用具の使い方を知り、挑戦しようとする意欲を持つ。
- ・身体を思いっきり動かす楽しさを味わいながら、自分なりの目標を持って自己の体力を伸ばす。



経験する内容

- ・周りの友達の様子を見たり認め合ったりしながら、頑張ろうとする。
- ・準備や後片付けをして協力する気持ちを持つ。
- ・保育者から用具の使い方、ルールを聞く。
- ・準備体操をする。
- ・順に巧技台、平均台、ゴムとび、縄とび、マット、鉄棒に挑戦する。

子どもの姿

- ・用具の使い方や、ルールを知る。
- ・友達と刺激し合いながら自己の体力を伸ばす。
- ・できないものにも挑戦し、頑張ることで達成感を味わう。



環境・援助で気をつけること

- ・サーキット遊びの順番やルール、用具の正しい使い方を知らせ約束事を確認し、安全に注意する。
- ・無理のないように、発達段階に応じてできない子どもに対しては、保育者が丁寧に補助し自信につなげていく。

